



## GHG排出量算定・可視化クラウドサービス Zeroboard(ゼロボード)

"Zeroboard"はGHG排出量算定・開示業務の効率化と削減管理ができます

### Zeroboardの特徴

- ✓ 算定工数削減に繋がる多様な機能
- ✓ 開示に向けた正確な算定の為のガバナンス強化
- ✓ AIによる質問の回答や原単位の特定



### ゼロボードが選ばれる理由

#### 社内外の専門家による支援体制

豊富な算定実績のカスタマーサクセス部による算定支援や日本LCA学会理事を要するゼロボード総研、LCA推進機構とのアドバイザリー契約等を通じてお客様の課題解決を致します



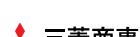
#### 企業全体のGHG排出量算定からCFP算定まで対応

現在上場企業に求められている企業全体のGHG排出量算定から、取引先への開示やブランドティングの為のカーボンフットプリント算定までの支援が可能です



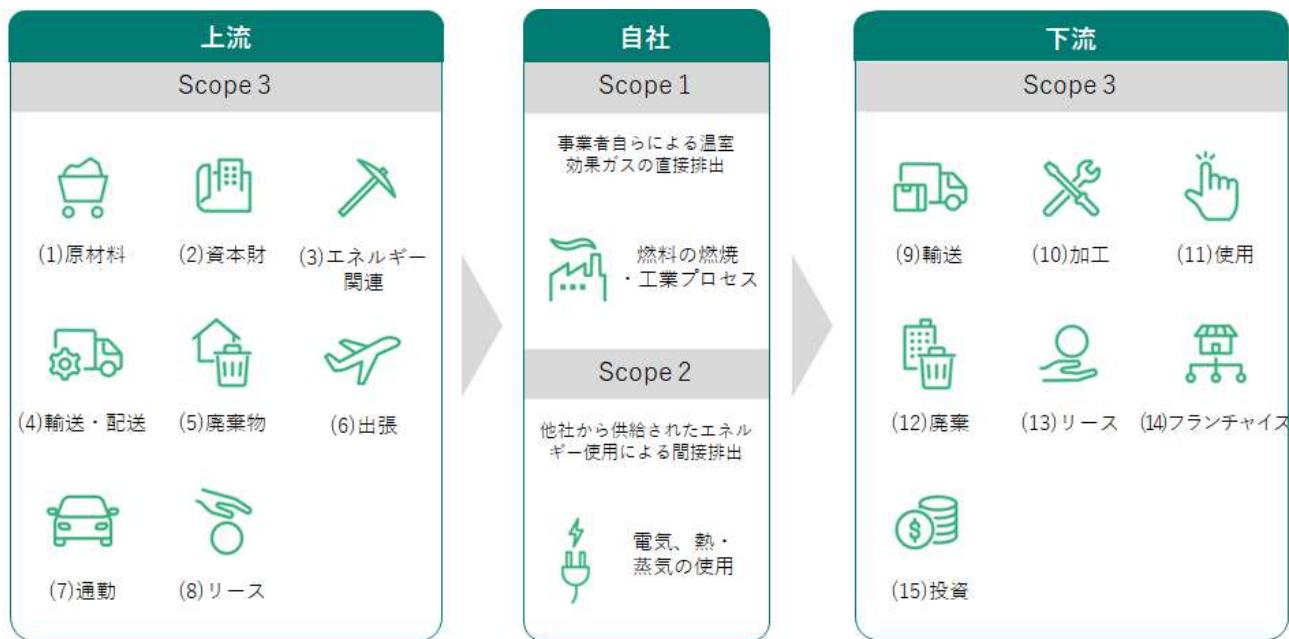
#### パートナー企業と連携し、算定・可視化から削減までを一気通貫で支援

ゼロボードはプラットフォーマーとしてユーザー企業様の算定・可視化から削減に對しての課題をパートナー企業と連携し、一気通貫で支援致します



# GHGプロトコルとは

温室効果ガスの排出量は、国際的な基準(GHGプロトコル)に基づき算定が必要。ポイントは「Scope1~3の3つの範囲があること」「自社のみならず取引先の排出量も算定対象であること」



## 温室効果ガス排出量の算定方法

排出量は、活動量に排出原単位を乗じることで算定。上図の通り、直接・間接的にCO2排出につながるほぼ全ての企業活動についてデータを収集の上、算定が必要となる



### 活動量の例



電気の使用量



貨物の輸送量

廃棄物の処理量



### 排出原単位の例

電気1kWh  
使用あたりのCO2排出量

貨物の輸送量  
1トンキロあたりのCO2排出量

廃棄物の焼却  
1tあたりのCO2排出量

Source : 環境省「サプライチェーン排出量～算定編～」

### 排出原単位には一次データと二次データがある

一次データ：自社で測定したデータや、取引先から収集したデータ

二次データ：製品やサービスの平均値や業界が標準としているデータ（環境省の産業連関表やIDEAなど）

## CO2排出量算定における取引先からの要請増加

### 企業のCO2排出量の提出依頼

プライム上場企業を中心にサプライチェーン全体でのCO2排出量の開示が進む中、非上場企業に対し取引先からCO2排出量の算定・提出が求められるケースが増加している

### SBTの目標設定の依頼および中小企業版SBTの取得

様々な業界において、SBT(Science Based Target)に基づくCO2排出量の削減目標設定および中小企業版SBT認定取得を取引先から求められるケースが増加している

### CFP(製品算定)の提出依頼

製品・サービスごとのCO2排出量を開示する動きも広まってきており、取引先へ納入している製品・サービスごとのCO2排出量の提出も求められてきている

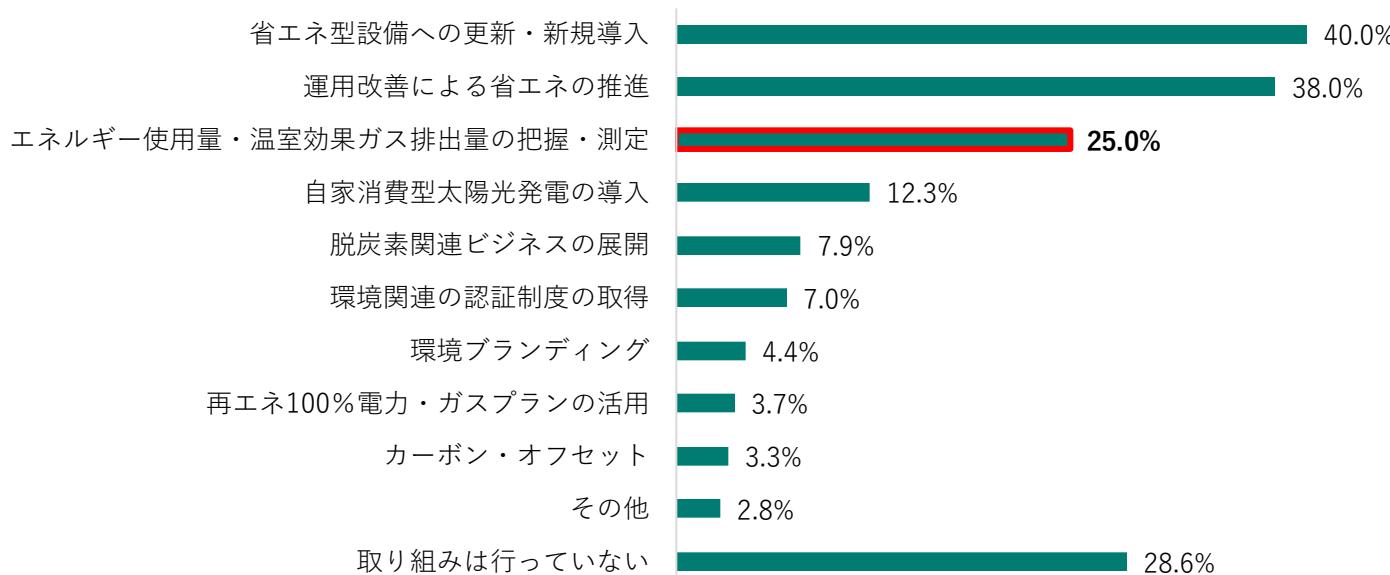
もはや企業にとって、脱炭素経営に取り組まないことがリスク

## 中小企業の脱炭素の取り組みも進んでいる

中小企業の約7割が省エネなどの脱炭素に取り組み、4社に1社は温室効果ガス排出量を測定している

### 実施している脱炭素に関する取り組み

【複数回答】n=2,139



導入企業数  
約3,400社以上  
全利用社数  
約11,500社

脱炭素経営に取り組む多くの企業様にご導入いただいています  
(約8割が中小企業)



180社以上のパートナーと提携 2024年12月1日時点



- ISMS (ISO27001)
- 認証取得組織：株式会社ゼロボード
- 認証登録範囲：CO2排出量の算出・可視化から削減のためのソリューション提供に関するクラウドサービスの開発提供/サステナビリティ経営におけるコンサルティング



- 妥当性確認対象範囲：GHG排出量算定・可視化クラウドサービス「Zeroboard」(2022年1月リリース版)
- 妥当性確認概要：ISO14064-3に準拠したSOCOTECにおけるGHG情報システム保証手順に基づいて基準を満たしていることの妥当性確認を実施